

〔日本書紀神代〕一書曰略○中 天照大神怒甚之曰汝是惡神不須相見乃與月夜見尊ヒトビヒトヨ一日一夜隔離而

住

〔伊勢物語下〕昔おとこ有けり略○中 女がたにゑかく人成ければ書にやれりけるを今の男の物す

とてひとひふつかをこせざりけり略○下

〔類聚名義抄二〕二日フツカ

〔萬葉集十七〕思放逸鷹夢見感悅作歌一首并短歌

知加久安良波伊麻布都チカクアラハイマフツツカ可タ太未等保久安良婆ミトホクアラハハ奈奴可ナヌカ乃宇知波須疑米也ノウチハスギメヤ母伎奈牟和我勢故モケナムワガセコ略○下

〔萬葉集略解十七〕卷十三萬葉集久久にあらば今七日イマノシチノヒばかり遠くあらば今ふつかイマフツカばかりあらん

とぞといへるに同じ詞なれば此だみはばかりといふ詞とはきこゆ北國の人はばかりとい

ふをだみといふよし或人いへり春海は未は爾の誤かといへり元曆本未を米に作る猶考べ

し

〔源氏物語桐壺〕日々にをもり給てたゞ五六日のほどにいとよはうなれば略○下

〔源氏物語湖月抄桐壺〕五六日細流抄細いつかむゆかと日の字をいれて讀也

〔釋日本紀九〕山城國風土記曰略○中 玉依日賣略○中 孕生男子至成人時外祖父建角身命造入尋屋

堅八戸扉釀八腹酒而神集集而七日七夜樂遊

〔萬葉集十〕春相聞寄雨

春雨爾衣甚將通哉ルナツメニモイハクタイホシホラヤオスカシフヲガオコロジト七日四零者七夜不來哉

〔古事記上〕於是在天天若日子之父天津國玉神及其妻子聞而降來哭悲乃於其處作喪屋而河鴈爲

岐佐理持字自岐下三鷗爲掃持翠鳥爲御食人雀爲確女雉爲哭女如此行定而日八日夜八夜以遊也

〔古事記傳十三〕日八日夜八夜八日は八夜に對ひたれば耶比と訓べきが如くなれども猶耶加